豊田里夫 チェロリサイタル 2025 *Rio Toyoda Cello Recital 2025*

豊田里夫

チェロ

Rio Toyoda
Violoncello

幼少期をベルリンで過ごす。5歳で母よりピアノの指導を受け、6歳よりチェロを始める。10歳でスタインウェイ・ピアノコンクールにて2位、ドイツ連邦青少年音楽コンクールのチェロ部門にて1位、またコンチェルティーノ・プラガ国際コンクールにて1位受賞。1981年パリ音楽院を一等賞で卒業、同年ロストロポーヴィチ・チェロ国際コンクールにて優秀賞。モーリス・ジャンドロン、アンドレ・ナヴァラ、ヴォルフガング・ベッチャーの各氏に師事。マンハイム国立劇場の首席チェロ奏者、オスロー・ノルウェー歌劇場のチェロ奏者を務め、1996年よりライプツィヒ交響楽団の副首席チェロ奏者として現在に至る。1989年から1991年にかけてはウィーン・ジュネッセ合唱団のバス歌手として管弦楽団とともに多くの舞台を踏む。
ソリストとして、モンテカルロ管弦楽団、群馬交響楽団、ライプツィヒ交響楽団などと共演を重ねる。室内楽の分野では長年パリ・サイモン弦楽四重奏団のメンバーを務めたほか、モーリス・ジャンドロン、フィリップ・モル、コリア・ブラッハー、藤井一興、ライナー・シュミット、兄の豊田弓乃とも共演を果たす。また、ベルリン・ブランデンブルグ放送（RBB）、ヘッセン放送（HR）、イタリア・ラジオスヴィェ 、ラジオ・フランスとも多くのラジオ録音を残す。指揮者としても、L・マゼール、K.コンドラシン、V.アシュケナージのオーケストラのリハーサルに触れる機会に幼い頃から恵まれ、1989年から1991年にかけてはウィーン音楽大学にてカール・エスターライヒャー教授のもと指揮を学ぶ。またユリウス・カルマー、ヘルムート・リリング、ライフ・ゼーガーシュタムのマイスターコースにも参加、とりわけゲヴァントハウス管弦楽団の名誉指揮者であるヘルベルト・ブロムシュテットから音楽的影響を受ける。これまでにウィーン音楽大学の管弦楽団、ライプツィヒ交響楽団の室内楽団などを指揮、自らウィーン室内管弦楽団、ザクセン室内楽団を結成し多くのコンサートで指揮を務める。2008年からはヘンレ出版社の校正員としても従事、2014年からはアルテンブルグ音楽学校、シュモルン音楽学校にて後進の指導にあたっている。

東 誠三

ピアノ

Seizo Azuma
Piano

真摯なアプローチから生まれる多彩な音色と、溢れる生命力によって紡がれる東誠三の音楽は、近年益々その評価を高めている。東京音楽大学付属高校から東京音楽大学に進み、井口愛子、中島和彦、野島稔、片岡ハルコの各氏に師事。1983 年第52回日本音楽コンクール第1位。同校卒業と同時に、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に留学。その後、数多くの国際コンクールに入賞し、演奏活動に入る。これまでに、ヨーロッパ、北米などでリサイタル、オーケストラと共演し、国内ではN響をはじめ、各地の主要オーケストラにソリストとして招かれている。1998年には、第24 回ショパン協会賞を受賞。2008 年～ 12 年には、全8 回のベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全曲演奏会が三春交流館「まほら」にて開催され、好評を博した。ソロ活動と共に室内楽にも強い意欲を示し、「ボア・ヴェール・トリオ」での活動をはじめ、多くのトップソリストたちと絶妙なコラボレーションを聴かせている。CDは「ベートーヴェン：悲愴&告別ソナタ」、「ラ・カンパネラ～リスト名曲集」、ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全曲演奏会シリーズのライブ録音全9 集等。活発な演奏活動と共に、東京藝術大学教授、東京音楽大学特任教授、スズキ・メソード特別講師長として、後進の指導を行う。近年では、日本音楽コンクール、ジュネーヴ国際音楽コンクールなど、数々のコンクールの審査員も務める他、フランスの「MusicAlp」夏期音楽アカデミー ＆フェスティバルに招かれている。日本ショパン協会理事。